サイコパシーの他者に対する感情反応に及ぼす注意の影響

○田村紋女¹・守谷 順²・竹林由武^{1,3}・田中圭介¹・高田圭二¹・杉浦義典¹⁽¹⁾広島大学大学院総合科学研究科・⁽²⁾関西大学社会学研究科・⁽³⁾日本学術振興会特別研究員 (PD))

キーワード：サイコパシー，注意，感情反応

Moderating Effect of Attention on the Relationship between Psychopathy and Affective Responses of others

Ayame TAMURA¹, Jun MORIYA², Yoshitake TAKEBAYASHI^{1,3}, Keisuke TANAKA¹, Keiji TAKATA¹, and Yoshinori SUGIURA¹⁽¹⁾Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima Univ., ⁽²⁾Graduate School of Sociology, Kansai Univ., ⁽³⁾SPS Research Fellow)

Key Words: Psychopathy, Attention, Affective Responses

目 的

サイコパシーは反社会的な性格特性であり，対人関係や感情面の問題を特徴とする一次性的サイコパシー，行動面の問題を特徴とする二次性サイコパシーに集約される (Hare, 2003)。サイコパシー傾向の高い人は他者の感情に対して鈍感であり，他者と感情を共有する能力である共感性も低い。そのため，サイコパシー傾向の高い人では，犯罪や利己的な行動が抑制されないと考えられている (Blair et al., 2005)。近年の研究では，サイコパシーの様々な感情面の問題は注意によって調整されると指摘されている (Dawel et al., 2012)。このような注意による調整効果を想定した仮説 (反応調整仮説) に基づくと，サイコパシー傾向の高い人は自身の目的に関する情報を選択的に処理するため，感情を喚起する情報への反応が減少する (Newman & Lorenz, 2003)。そこで，本研究では，サイコパシーの他者に対する感情反応も注意の影響を受けるか検討することを目的とした。

方 法

実験参加者：大学生42名 (平均年齢19.45±1.53歳，女性23名) であった。**測定指標：**サイコパシーは Levenson Self-Report Psychopathy scale (LSRP) で測定した。他者に対する感情反応は国際感情写真システムから人物の画像 (快，中性，不快) を選定し，自身に生じた感情を Self-Assessment Manikin (SAM) を用いて9件法 (不快—快) で回答させた。SAMの得点は高いほど快感が，低いほど不快感情が喚起されたことを表す。注意は知覚的負荷課題で測定した (図1)。この課題では，画面上に注視点，ターゲット (XかN)，知覚的負荷 (0個，3個，5個)，課題無関連刺激を呈示した。知覚的負荷条件は負荷の数に応じて，低負荷，中負荷，高負荷条件とした。課題無関連刺激は英字の左右片側に呈示し，ターゲットとの関係を一致，中性，不一致とした。参加者はターゲットに適合するキー押し反応を行った。分析では不一致から一致の反応時間を引いて，一致効果 (Compatibility Effect: CE) を算出した。

CEは高いほど課題無関連刺激を処理しやすく，低いほど課題無関連刺激を処理しにくいことを表す。負荷理論 (Lavie, 1995) によると，負荷が低い時は課題無関連刺激を処理しやすく，負荷が高い時は課題無関連刺激を処理しにくい。サイコパシー傾向の高い人は負荷が中程度の時，課題無関連刺激を処理しにくいことが報告されているため (Sadeh & Verona, 2008)，本研究でも，中負荷条件のCEがサイコパシーの他者

に対する感情反応に影響を及ぼすと考えられた。

結 果

LSRPの一次性的サイコパシーと低負荷条件のCE，および両者の交互作用項を説明変数とし，快感を表す他者に対するSAMの値を目的変数とする階層的重回帰分析を行った結果，交互作用が有意であった ($\Delta R^2 = .14, p < .05$)。低負荷条件のCEが低い場合，一次性的サイコパシーと快感を表す他者に対するSAMの値は正の関連を示した (図2，左)。また，LSRPの二次性サイコパシーと低負荷条件のCE，および両者の交互作用項を説明変数とし，快感を表す他者に対するSAMの値を目的変数とした結果，交互作用が有意であった ($\Delta R^2 = .11, p < .05$)。低負荷条件のCEが低い場合，二次性サイコパシーと快感を表す他者に対するSAMの値は負の関連を示した (図2，右)。

図2 快感の他者への感情反応に対する一次性的サイコパシーと低負荷条件のCEの交互作用 (左) と快感の他者への感情反応に対する二次性サイコパシーと低負荷条件のCEの交互作用 (右)

考 察

本研究の結果から，低負荷条件のCEがサイコパシーの他者に対する感情反応に影響を及ぼすことが示された。負荷が低い時は，知覚成立以降の高次な注意が課題無関連刺激の処理を制御することに関与する (Lavie, 2005)。したがって，一次性的サイコパシーの高い人は高次な注意の働きによって情報を制御する能力が高い場合，快感を表す他者への感情反応が十分に喚起されることが示された。これは，サイコパシー傾向の高い人は目的に関する情報に注意が向いている場合，感情を喚起する刺激に対する反応が低下するという反応調整仮説に一致しない結果であった。その要因として，反応調整仮説では，感情の喚起に対する知覚段階の低次な注意の働きを想定しているが，本研究では感情の喚起を前提として感情価 (不快—快) を問う主観指標を用いたため，高次な注意の働きが示されたと考えられる。

一方，二次性サイコパシーの高い人は高次な注意によって情報を制御する能力が低い場合，快感を表す他者から快感が喚起されにくいことが示された。先行研究でも二次性サイコパシーと快感を表す他者に対するSAMの得点は負の関連が示されている (Ali et al., 2009)。本研究で低負荷のCEによる調整効果が得られたことには，二次性サイコパシーが情動制御の低さや不安の高さを特徴とすることが反映されたと考えられる。今後の研究で詳細な検討が必要であるだろう。